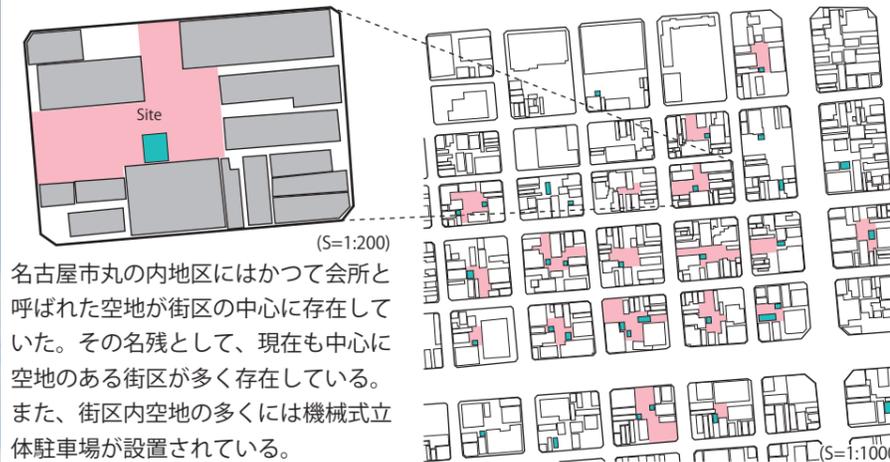


MaaS時代の立体的会所

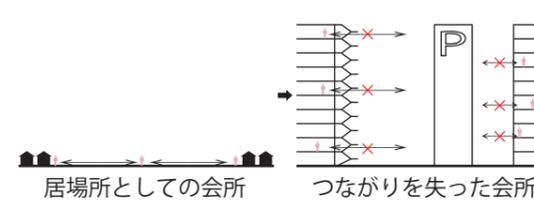


01. 点在する会所と機械式立体駐車場



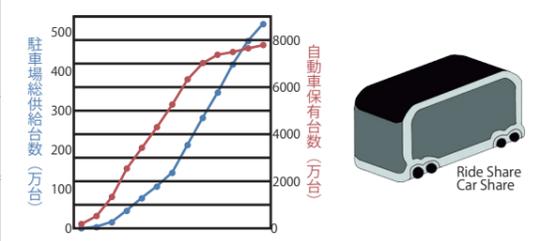
名古屋市丸の内地区にはかつて会所と呼ばれた空地が街区を中心に存在していた。その名残として、現在も中心に空地のある街区が多く存在している。また、街区内空地の多くには機械式立体駐車場が設置されている。

2. 建物の高層化に対応できてない会所



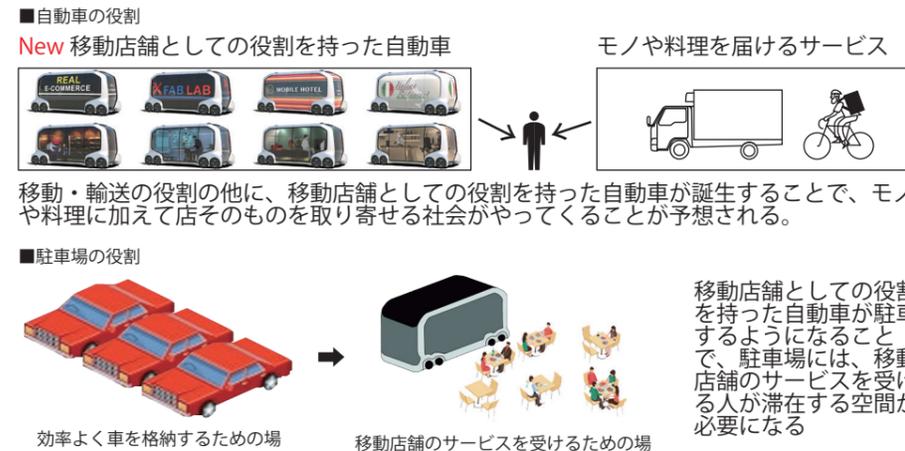
かつての会所は居場所として存在していたが、建物の高層化に対応することができず、非常用階段や機械式立体駐車などにあてがわれており、人と人とのつながりが失われた。また、現在の建物と会所とのつながりは失われ、建物は、外部から切り離されている。新型コロナウイルスによって改めて、建築と外部空間との関係を再構築することが課題となっている。

3. 過剰に供給される駐車場

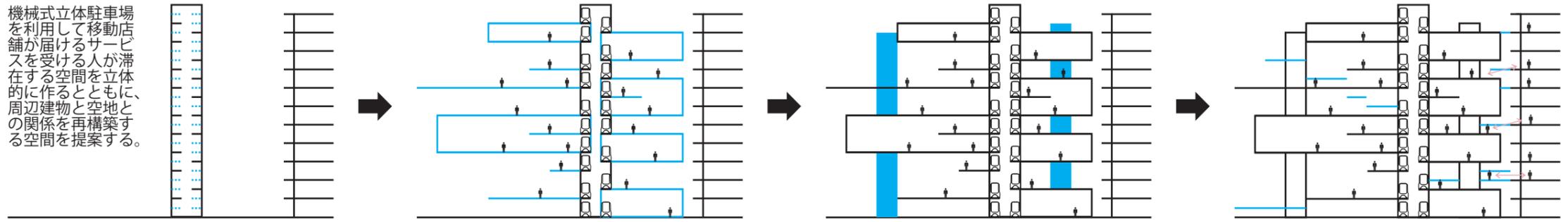


近年、自動車の保有台数に比べて駐車場が過剰に整備されている。また、自動運転技術によってRide ShareやCar Shareが増加し、ますます自動車の保有台数は減少することが予想され、不要となる駐車場をどのようにに活用するかが問題となる。

4. MaaS時代の自動車と駐車場の役割



5. Design Process



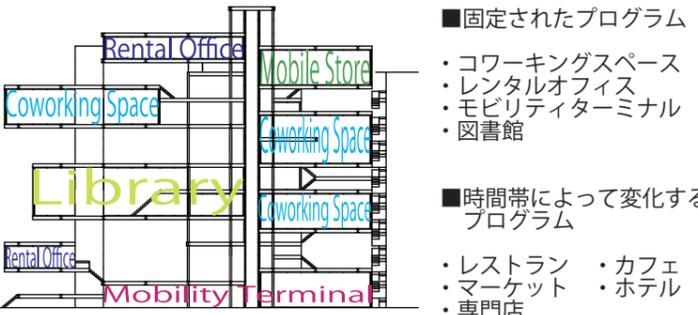
Step1 既存の機械式立体駐車場のスラブを間引いて自動運転車の規格に合うように高さを調節する

Step2 スラブを拡張して移動店舗のサービスを受ける人が滞在するスペースを作る凹凸をつけて拡張することで空地を形成する

Step3 車が運べない水まわりやEVをコアとして挿入する

Step4 各層の空地を繋ぐようにスラブが挿入する。挿入したスラブが周辺の建物と空地のつながりを再構築する

6. Program



人が多く集まる都市は、時間による需要の変化に対応できていない。例えば、昼食時には、急増するレストラン需要に対応できずにランチ難民が生まれている。立体的に形成した空地に駐車する移動店舗が時間帯によって変化することによって時間による需要の変化に対応することができる。

